

令和5年度 広島西支部 活動報告

今年度の広島西支部事業部としての研修会を、下記の通り開催いたしました。

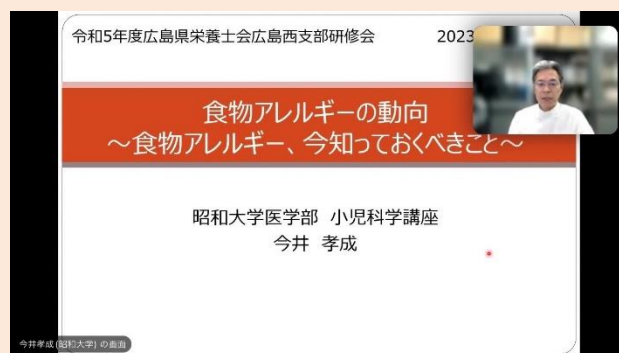
日時：令和5年8月26日（土） 10:00～12:00

場所：オンライン開催

講演1

演題 『食物アレルギーの動向 ～食物アレルギー、今知っておくべきこと～』

講師 昭和大学医学部小児学講座 教授 今井 孝成 先生



今回、食物アレルギーについて基礎的なことから最近の動向までとてもわかりやすくご講演いただきました。100人を超える参加があり、研修後のアンケートでは“非常に満足”“今後の業務に役立つ内容だった”というご意見が多かったです。次回もぜひというお声もあり、盛会な研修でした。

【講演内容】

食物アレルギーの有病率・アナフィラキシー発症患者が増加している。最近では、食物アレルギーの表示食品に「くるみ（義務）」「カシューナッツ（推奨）」が追加された。アレルギーの原因食品上位の卵・牛乳・小麦は6歳までに治癒していく。しかし、卵・牛乳・小麦以外は治癒しにくい。食物アレルギーには即時型と遅延型がある。即時型は摂取後2時間以内に症状出現し、遅延型は2時間以降に症状出現する。食物アレルギーの診療に際し「正しい診断・必要最小限の除去・食物アレルギーの子供に対する自立支援」が重要である。

【正しい診断】血液検査で陽性であっても食物アレルギーと診断することはできない。最終的には経口負荷試験を行うことが必要であり、そのためにも経口負荷試験に関する正しい情報を取得しなければならない。

【必要最小限の除去】食物アレルギーと診断された場合、QOLをあげるために除去食品を減らす・除去量を最小限にすることが重要である。そのためには、正しい知識・理解が必要になる。

【患者の自律と自立支援】

食物アレルギーの子供が自立するためにライフステージ別に教育が必要。最初は患者の保護者へ介入し思春期から子供が自立できるよう医師・看護師・管理栄養士が協力して行っていくことが大切である。